

授業概要

本講義は、近代日本が経験した主要な戦争を取り上げ、それらを取り巻く国際関係や国内状況などを検討していくことにより、戦争の発生要因や歴史的意義、あるいは戦争に対する指導者および国民の意識などを明らかにしていきたい。歴史を専門としない学生にもわかりやすいように、できるだけ具体的な事例を交えながら、戦争を通して日本近代史の特質を理解してもらえるように講義する。

なお、適宜ビデオ教材も使用しつつ、授業内容への理解を深めていくこととする。

授業計画

第1回	授業の進め方の説明
第2回	日清戦争① 東アジア情勢
第3回	日清戦争② 日本の対外姿勢
第4回	日清戦争③ 国民の日清戦争観
第5回	日露戦争① 対露関係と日英同盟
第6回	日露戦争② 日露戦争の意義
第7回	日露戦争③ 戦後日本の転換
第8回	第一次世界大戦① 参戦目的
第9回	第一次世界大戦② 総力戦と国家改造論
第10回	第一次世界大戦③ パリ講和会議と日本
第11回	満州事変と日中戦争① 事変の背景と世界最終戦論
第12回	満州事変と日中戦争② 軍の台頭
第13回	満州事変と日中戦争③ 中国への侵攻
第14回	太平洋戦争① 南進と日本包囲網の形成
第15回	太平洋戦争② 開戦へ
第16回	筆記試験

到達目標

現在の日本社会を洞察するといった観点から、しばしば近現代の歴史を学ぶことの重要性が指摘されている。本講義では、今日の東アジアにおいて閉塞状況に陥った日本の針路を模索する眼を養うべく、過去の日本が戦争という「危機の時代」にどう向き合い、どのように振る舞ったのかを学ぶことを通じて、歴史の教訓を得ることを目指したい。

履修上の注意

- (1) 歴史に興味のある学生を対象としていることを特に強調しておきたい。
- (2) 遅刻3回で欠席1回と見なす。
- (3) 授業中の「私語」は厳禁。

予習復習

- (1) 授業で取り上げるテキストの箇所は、授業内容を理解しやすくするためにも、毎回必ず事前に読むなどの予習を徹底すること。
- (2) 授業の理解度をチェックするための小テストを適宜実施するので、復習を心がけること。

評価方法

学期末試験〔論述形式〕(70%)と小テスト(30%)の合計点を基に、出席状況を勘案しながら成績評価を行う。

テキスト

『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』加藤陽子、朝日出版社

授業概要

わが国の歴史が始まってからおよそ2000年の時が流れているが、その間にどのような経過をたどって現代の私たちの社会に至ったのか。それを知っておくことは社会人として欠くことのできない素養であり、よりよい未来を創造するための土台となる。過去という根をもたぬ現在も未来も、ありえないのだ。何よりそのことを学んでもらいたい。使う教科書は、キャッチフレーズによれば、「社会人のための高校教科書 プームだけではわからない、本物の歴史が読める本」である。要するに、日本史の常識的知識を講義する。

授業計画

テキストの目次にしたがって以下のように進める（p.p.の数字は教科書のページを示す）。
内容の重要度などによって、多少は流動的になる（次回にはみ出す）ことがあるかもしれない。

第1回	ガイダンス（歴史を学ぶことの意味、授業の進め方など）
第2回	日本のあけぼの（文化のはじまり、農耕社会の誕生） p.p.2～10
第3回	ヤマト王権の成立①（小国の時代、古墳文化の発展） p.p.11～18
第4回	ヤマト王権の成立②（大王と豪族） p.p.19～24
第5回	古代国家の形成①（飛鳥の宮廷、大化の改新、律令国家） p.p.25～35
第6回	古代国家の形成②（飛鳥・白鳳の文化、平城京の政治、天平文化） p.p.36～46
第7回	律令国家の変質①（平安遷都、弘仁・貞観文化、貴族政治の展開） p.p.47～56
第8回	律令国家の変質②（摂関政治、国風文化、荘園と武士団） p.p.57～68
第9回	武家社会の形成①（院政と平氏政権、幕府の誕生） p.p.70～81
第10回	武家社会の形成②（武士団の世界、よみがえる農村） p.p.82～89
第11回	武家社会の形成③（鎌倉文化） p.p.90～96
第12回	武家社会の転換①（モンゴル襲来、南北朝の動乱） p.p.97～106
第13回	武家社会の転換②（室町幕府と勘合貿易、北山文化） p.p.107～116
第14回	下剋上と戦国大名①（下剋上の世界、東山文化） p.p.117～130
第15回	下剋上と戦国大名②（戦国の世） p.p.131～136
第16回	定期試験期間中に筆記試験を実施（試験時間は60分の予定）

到達目標

テキストの巻末にある年表を目安として、常識的に知っておいてほしい出来事や人物についての知識を獲得する。とくに、漢字を正しく読み、正しく漢字で書けるようになることを求める。

履修上の注意

- *遅刻・欠席・途中退出・私語などは厳に慎むこと。一タシラバスで注意しなくとも、これは常識であり、かつ礼儀でもある。
- *将来、日本史や日本文化を学ぶゼミを選択したいならば、ぜひ修得してもらいたい（たんに履修でなく、「修得」である）。

予習復習

【予習】毎回、翌週に講義するページを指示するので、必ずあらかじめテキストを読んでおく。

【復習】もう一度、テキストおよびノートを読み返す。

評価方法

期末に実施する筆記試験の成績によって評価する。その出題形式は、説明文に該当する人名や事件名などを答えるものを予定している。授業に出席するのは当たり前だから、出席点は考慮せず、もっぱら試験の得点による。つまり遅刻・欠席・授業中の態度などによる減点もしないかわりに、出席優良による加点もしない。

テキスト

『もういちど読む山川日本史』 五味文彦・鳥海靖編（山川出版社、2009年）